



CONTENTS	
沿革・しんわ楊貴妃伝説	P1
小宮地地区	P2~3
宮南地区	P4~5
大宮地地区	P6~7
大多尾地区	P8~9
中田地区	P10~11
碓石地区	P12~13
新和町の見どころ・イベント	P14~15
宿泊施設情報	P16
しんわグルメ情報	P17
新和町6次産業事業者	P18~19
農家民泊・教育旅行プログラム	P20
ふるさと納税のご案内	P21
アクセス・問い合わせ先	

町の紹介

天草市新和町は熊本県の南西部、天草下島の中央東寄りに位置し、東部は不知火海に面した海岸線となっています。面積は55.20km²。

本町は、温暖な海岸地域と比較的低温な山間地域に分かれています。中央部は、約200haの水田が広がり、天草有数の穀倉地帯となっています。また、屏風連山南端の竜洞山からの眺望はすばらしく、遠くは鹿児島県、南と西には天草の山々、北には雲仙と360度の大パノラマを一望できる景勝地で、雲仙天草国立公園に指定されています。

本町では、住民自治組織として「新和まちづくり協議会」と、6つの「地区振興会」が組織され、地区住民が中心となってまちづくりを進めています。

しんわ楊貴妃物語



新和町の中央に横たわる屏風連山の一面に竜洞山があり、この一帯に伝わる絶世の美女伝説がある。今から千二百有余年の昔、竜洞山の山ふところに、見事な屋形が建っていた。その屋形には、絶世の美女が住んでいた。余りの美しさに村人たちは、狐か狸の化身ではないかと噂し、誰一人として近寄るものはいなかった。ある年の夏、疫病が流行し村人たちは大変困っていた。それを知った屋形の美女は、唐の国から持ってきた「楊貴湯」を村人たちに分け与え、難病に悩む人々を救ったと言った。それ以来村人たちは屋形の美女を尊敬し、日ごとに仲良くなった。唐の国から逃れてきた楊貴妃と、この高貴な方であることを知った村人たちは、心優しい楊貴妃を慕い続けた。

楊貴妃が玄宗皇帝の迎えの使者が来ることを待ちわびて、一日千秋の思いで耐え忍んでいたある日のこと、一転にわかに捲き曇り雷鳴轟くなかで、屋形から一匹の竜が山頂に舞い上がり、竜と共に楊貴妃の姿も消え去った。一瞬にして屋形が跡形もなくなったが、楊貴妃が愛用していた香袋が一つ、山中の大岩の上に置いてあったと言った。

今も、新和町では楊貴妃を慕って、毎年秋には楊貴妃祭りが行われている。

(しんわ楊貴妃物語より抜粋)